

## 2018年をふりかえる

2018年、そして平成最後の年もあとわずか。今年の流行語大賞は「そだねー」、今年の漢字は「災」、そして今年の一皿は「鯖(さば)」となりましたが、みなさまにとってどのような年でしたでしょうか。年末恒例、今回のCBCA NEWSでは、独自の目線で、ジャンル別に2018年をふりかえます。

### ✚ 政治・経済

政治の分野に限らず、世界の今年の顔といえるのは、昨年に引き続き「トランプ米大統領」でしょう。ツイッター、大統領令、強硬な外交姿勢、の3つの武器を振りかざし、まさにやりたい放題の一年でした。北朝鮮問題が一服すると、その矛先は中国に。米中貿易戦争は長期化の様相を呈しています。同じくタフガイで知られる中国の習近平国家主席とトランプ米大統領の首脳会談のツーショットは、まるで二人のジャイアンが対決する光景のようです。さながら日本の安倍首相は、ジャイアンに媚を売るスネ夫のような存在でしょうか。


株式市場もトランプ氏に翻弄された1年でした。米中貿易戦争を巡る不確かな情報に振り回され、NYダウが数百ドルの乱高下を繰り返すのも珍しくなくなりました。市場の混乱を意に返さない米大統領など、過去に記憶はありません。投資家の多くも、そろそろウンザリしているのではないのでしょうか。

国内政治では、来年の消費税増税を巡る話題が最も注目を集めました。政府は、先月のCBCA NEWSでも書きました「ややこしい軽減税率の導入」に加えて、「増税率を上回る還元ポイント」による景気対策、さらに「なりふり構わないキャッシュレス推進策」まで盛り込みました。いずれも目的と効果の程がよく分からない、厄介な現場泣かせの策です。影響する業界や関係者の反発する声あまり伝わってこないのが不思議です。

入国管理法改正における国会の動きも、とてもお粗末なものでした。この法改正の背景には、人口減少に伴う労働力不足のため外国人をどう日本に受け入れていくのか、そして将来の日本社会をどう構築していくのか、避けて通れない非常に重要な課題があります。ところが政府は、大きなビジョンを示すことなく、つけ刃的な対応で当座の労働力確保を優先することに終始しました。一方の野党も、そもそも外国人労働者を増やす必要があるのかを政府に問いただすなど、ちゃんと問題認識がなされているのか疑問に感じる的外れな対応が目立ちました。

全体として、国会運営が雑な印象を受け、政策立案能力が低下しているように感じられる昨今です。政治家の質の低下はよく言われることですが、一連の不祥事や政策立案の右往左往を見ていると、官僚の質および力量の低下が大きく影響しているのではと心配しています。

さて、経済界のビッグニュースといえば、なんといっても日産のゴーン会長の突然の逮捕でしょう。高額な報酬がしばしば取りざたされていたゴーン氏ですが、さらに高額な報酬を秘密裏に受け取っていたとは、にわかには信じがたい話です。なぜゴーン氏は、そんな危ない橋を渡ろうとしたのでしょうか。ゴーン氏は法令違反をあくまでも否定していると報道されていますが、果たしてどう決着するのでしょうか。

 社会・スポーツ他

今年はスポーツ界を巡る不祥事が相次ぎました。日大アメフト部の危険タックル問題では、勝利至上主義、監督・コーチによるパワハラ、そして絶対服従の選手達といった、日本のスポーツ界に潜在するさまざまな問題が浮き彫りになりました。問題はアメフト部にとどまらず、大学の対応や組織にも厳しい目が向けられることとなりました。

女子レスリング界を揺るがすパワハラ騒動も衝撃を与えました。オリンピックの金メダル選手それも4連覇を成し遂げた伊調馨選手でさえパワハラの対象になるということは、スポーツ界における諸問題がどこでも誰にでもありうる珍しい問題であることを示唆します。むしろ今までは問題視されることのない当たり前の事象だったのかもしれませんが。

同じスポーツ界の不祥事でも、大相撲のごたごたは他のものとは少し趣が違って映りました。問題の本質はなかなか無くならない各界の暴力なのですが、元貴乃花親方の動向が関心事の中心になり、角界の改革への関心は薄れました。元親方は名横綱でしたが、この1年は独り相撲が目立ち、自滅した感があります。組織に対抗するにはそれなりの覚悟としたたかさが必要だということを、我々庶民も再認識させていただきました。

今年は、眞子さまの婚約問題で、皇室がマスコミに取り上げられる機会が多い年でした。他国の王室とは異なりスキャンダルとは無縁と思われた日本の皇室での出来事だけに、気を揉まれる方も多いことでしょう。先の秋篠宮さまの会見は衝撃的でした。ワイドショーのコメンテーターの中には、小室圭さんが立派な国際弁護士になれば直ぐカムバックできるなどお気楽なコメントをする方もいましたが、皇室が正式な会見の場であるように発言するということは、限りなく破談に近い状況であろうと思われまます。眞子さまのご無事を祈るばかりです。

さて、本来のスポーツ界では、日本の若者の世界での大活躍が際立ちました。オリンピックでの連覇を成し遂げたフィギュアスケートの羽生結弦選手、メジャーリーグでも二刀流で新人王に輝いたプロ野球の大谷翔平選手、全米オープンで優勝に輝いた女子プロテニスの大坂なおみ選手、さらに日本卓球界の大躍進など列挙にいとまがありません。大坂なおみ選手はさておき、今活躍する若い選手はいわゆる「ゆとり世代」に属します。全体的な学力の低下などを理由にゆとり教育は終了しましたが、ゆとりある自由時間を有効に過ごした若者が今活躍しているように思います。全てはその人次第ということでしょうか。

一般社団法人全国経営診断士協会

〒112-0004

東京都文京区後楽 2-2-17 NBD 三義ビル

TEL: 03-3812-8211 FAX: 03-3812-8213

mail@cbca.jp

http://www.cbca.jp

お問い合わせ先